

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790301022		
法人名	株式会社 あいの里		
事業所名	あいの里 芳賀		
所在地	福島県郡山市石淵町11-3		
自己評価作成日	2024.4.20	評価結果市町村受理日	令和6年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和6年5月10日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念のもと、ご本人様を中心とした日常生活を考え、実践しております。グループホームにいながら、自宅にいるような過ごし方を感じていただけるよう目指しています。また、ご本人様のお誕生日に行うお誕生日会、敬老会、クリスマス会をはじめとした、季節を感じられるイベントも行っています。また、主治医・認知症専門医・訪問看護師と密接な連携を図り、最後までご利用者様一人一人がその方らしく生活出来る様に支援しております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 温かいものは温かいうちに食べていただくなど食事の大切さを重視する法人の方針を踏まえ、利用者の希望を聞きながら職員が近隣の店舗に買い出しに出かけ、旬の食材を使用して毎食手作りの料理を提供している。また、毎月1回以上は行事食として夏バテ防止の流しそうめんやバーベキュー、寒い時期には鍋ものを提供するなど食の意欲をなくさないように努めている。  
 2. 職員が事業所前の通学路を地域住民とともに範囲を広げて雪かきを行っている。お祭りでは子ども神輿に立ち寄ってもらい、専門学校生のボランティアや近隣の幼稚園児の訪問を受け入れて利用者との交流を図っている。また、法人として地元幼稚園や小学校へ楽器や図書への寄贈を行い、事業所において地域交流室を住民に開放するなど地域との交流に努めている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が共有するため、全体会議などでの唱和、入社時研修、内部研修を行っている	法人理念を事業所の理念として玄関に掲示して周知を図っている。毎月開催している職員会議とユニット会議でそれぞれ唱和を行い、浸透に努めている。また、毎年、理念に基づきユニットの目標を作成し、年度末に目標の達成などの振り返りを行うことで理念の実践に繋げている。	事業所の理念は法人の理念そのままではなく地域密着型サービスとして何が大切かを職員と一緒に考え、独自に作りあげていくことが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員となるため、近所の方との挨拶や会話、雪かきなど協力をは図っている	町内会に加入していないが、運営推進会議委員の町内会長や民生委員から地域の情報を得ている。事業所前の通学路の雪かきを近隣住民と一緒にやっている。地域のお祭りでは子ども神輿に立ち寄ってもらい利用者との交流を図っている。また、専門学校生のボランティアや幼稚園児の敬老会やクリスマス会での訪問を受入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して広める努力はしておりますが、中々広まらないのが現状です		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	令和5年度は隔月一回の計6回おこなう5回は開催し、1回は文章開催 様々な意見等頂く	利用者・家族・地域包括支援センター・町内会長・民生委員を委員として2か月に1回開催し、この1年間は1回の書面開催を除き、対面で会議を開催している。利用者の家族全員を委員に委嘱し、都合の良い家族に出席して貰っている。委員からは地域の情報や様々な意見を出して貰い、事業所の活動や運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは日頃から連絡を取り合っている包括支援センターとも連絡を取り合い、運営推進委員会のメンバーにもなっている	市との連絡や報告は、メールが主流になっている。事故報告もメールによる提出となっており、管理者等が市へ出向く機会は少なくなっている。それでも、管理者等は認定更新手続きや見守りネットワークの加入等の相談などで市を訪問し指導や助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設置・開催し身体拘束を行わないケアを目指している 玄関の施錠やホーム入口の施錠は基本的に夜間のみ行い、日中は交流室に行き来できる体制をとっている	指針を策定し職員全員を委員として毎月ユニット会議のなかで委員会を開催し、年2回研修会を実施している。玄関は内側の押しボタンにより開けるようになっているが、利用者の手が届く位置にあり押し外に出る利用者もいる。ボタンを押せない利用者が玄関から出ようとした時は、一緒に外に出ることにして行動を制限をしないようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新入社員・中途社員共に、また、常勤職員・非常勤職員共に入社した際に高齢者虐待防止の研修を受けている また、定期的に勉強会を行ったりしている	指針を策定し、身体拘束適正化委員会と同時に、毎月ユニット会議のなかで委員会を開催し、年2回研修会を実施している。毎月、不適切ケアチェックシートによる自己チェックを職員全員に実施し、集計結果を次回の委員会で報告のうえ、課題や対策について話し合いを行い虐待の防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	自立支援に向けてできることはできるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用される前に重要事項説明書・契約書を説明し、疑問・質問があれば返答している また、利用される前使用されて後の疑問に対してもいつでも相談できる旨を話、対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでもだれでも閲覧できるように玄関に設置している 運営推進会議にも出席していただき、様々な意見をいただいている	利用者の意見は本人との会話から把握するようにして、職員は利用者の意見や反応を申し送りノートに記録して共有している。また、会話が困難な利用者はジェスチャーなどから汲み取るようにしている。家族の意見は面会時やイベントで来所した時に伺うようにして運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日頃から職員とコミュニケーションをとっている また、定期的な面談を行い、アドバイスや改善に活かしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社として面談等を行い、就業環境の整備を行っている 福利厚生の方でも力を入れている		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの質・接遇の質など向上を目指し、研修を行っている	ユニット会議で職員の意見を聞く機会を設けている。また、年2回管理者が個別面談を行い、職員からの意見や要望、悩みなどを聞いている。職員からの要望に加え、法人の意向もあり週休3日制を導入するなど、職員の意見等を運営に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会・介護福祉士会と連携を取り、勉強会を行い、質の向上を目指している		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問調査や実態調査の際に、ご本人様ご家族様から生活するうえで困っている事などをお聞きし、安心してサービスが受けられるようにお話をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問調査や実態調査の際に、ご本人様ご家族様から生活するうえで困っている事などをお聞きし、安心してサービスが受けられるようにお話をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問調査や実態調査の際に、問題点を探し出し、現在のサービスでの困りごとや何のサービスがっているのか協議し対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と日々のコミュニケーションを取り、昔の話や知恵などを教えていただいている また、利用者様間の中に入り取り持つこともしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあればご家族様に連絡しご利用者様を共に支えていく姿勢でお話をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様が生まれ育った地域や馴染みの場所、馴染みの食べ物をお聞きし大切に、関係が途切れないように支援している	入居前の実態調査や家族面会時の聞き取りを通して、利用者の馴染みの人や場を把握している。知人や友人など馴染みの人との面会は制限せず実施している。また、家族の協力を得て外泊や外出、親戚との会食や法事・葬儀への参列、お墓参りなどを支援して関係が途切れないように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様一人一人の情報を共有し、間に入ったりしながら、お互いが支え合える関係を支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者様が退居されても、ご家族様から連絡を受けたり相談を受けたりしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様が生活する上で必要なことを把握し、ひとりひとり中心の生活を送れるよう支援している	利用者の思いや意向は、実態調査で把握するようにしている。入居後は、利用者との会話を通して把握に努めている。会話が困難な利用者は、家族の情報や本人の表情・反応から汲み取るようにしている。ユニット会議で職員間で情報共有を図りながら利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ひとりひとりのこれまでの生活歴や人生を共有し、新たにお聞きした内容も共有している 共有した情報を接する時に活かしたりしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	訪問調査や事前調査の際、一日の過ごし方やどう生活してきたか把握し、出来る限りその一日に近づけた生活が出来るよう支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や担当者と計画作成担当者との話し合いの場で意見を交換したりし、反映した計画を立てている	入居時には、実態調査時のアセスメントを踏まえ、利用者や家族の希望を汲み取って主任と担当職員が話し合っ6か月のケアプランを作成している。入居後、不都合があればその都度変更するようにしている。その後は、ユニット会議でモニタリングを行い、職員間で意見を出し合い基本6か月でプランの見直しを行っている。	現状に即した介護計画になるようサービス提供の実施内容や利用者の反応などの記録を基にモニタリングを行い、見直しに活かしていくことが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をシートに記入している また、ケアプランの内容も残し次回の計画へ活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	色々な要望やニーズにこたえられるように、日々行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居しても使える社会資源を考えながら支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるかぎり現在の主治医を大切に、外出等が困難になった場合などはご本人様やご家族様と相談しながら、適切な医療が受けられるよう支援している	これまでのかかりつけ医に家族の協力で受診している。体調の変化や日常の様子を口頭又は文書で説明し医療と介護の連携を図っている。協力医の往診が月2回あり、終末期には24時間体制で支援が可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問、緊急時の訪問の際に申し送りをし、適切な看護を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院をされた場合、病院の相談員と連携を取り、スムーズに行えるよう支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で重度化指針の説明を行い、看取りの場合出来る事出来ない事を説明し、もし看取りになった場合の方向性を検討している	入居時に重度化対応・終末期ケア対応指針に沿って説明を行い、口頭で意向を確認している。終末期には、主治医より説明を行い書面で同意を得て方針を共有している。家族と穏やかな時が過ごせるよう24時間面会が可能となっており、他職種が連携しチーム支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は訪問看護師・主治医・ご家族様にすぐ連絡し、対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画を作成し、定期的な避難訓練を行い、緊急時に備えている	年2回総合訓練を実施している。ハザードマップでは水害地域に指定されているため、垂直避難の訓練を実施している。BCPは法人本部で作成したものをベースに事業所の現状に沿った計画に見直している。地域の協力を得た避難訓練は行われていない。レトルト食品や缶詰、水などの非常食が3日分用意されている。	夜間を想定した訓練を全職員が経験できるように訓練機会を増やすとともに、地域の方が参加している運営推進会議時に避難訓練を行い、避難状況を理解していただきながら災害時の協力体制を築いていくことが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の情報を職員間で共有し、その方にあつた声かけを行い、入居者様の尊厳を傷つけないように言葉をかけている	接遇マナーや倫理及び法令遵守に関する研修会を実施している。毎月のユニット会議では、利用者の誇りやプライバシーに配慮した丁寧な関わりについて確認している。思いを表出することができない利用者には、表情やしぐさから思いを汲み取っている。個人情報には施錠し保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中ででやりたいことなどを尊重し、出来る限り実行できるよう支援している また、ご利用者様と納得するまで話すように心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の生活に合わせた一日の流れを考えている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から起床後整容を行い、身だしなみに気を付けている 行事などの時にはお化粧もしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	ご利用者様に味見やお手伝いをしてもらったりと一緒にしている その中で会話もはずみ、刺激になっている	利用者の希望を聞き取りながら、職員が献立を作成し、野菜の下処理や配膳など利用者と一緒に食事の準備を行い、3食手作りで提供している。毎月1回の行事食では、流しそうめんや鍋などを提供し、季節や楽しさが感じられるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューを考える時、偏ったメニューにならないよう注意し、毎食時、写真を撮り記録している また、偏りが出来ないように一週間ごとにメニュー作成の担当者を変えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいを行っている また、起床時に歯磨きなど自発的に行っている方もいる		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な排泄介助の勉強会を開催している トイレで行われる方はトイレで行うなど、減らす対応をしている	排泄記録や利用者のしぐさを観察し、羞恥心に配慮した声掛けを行いトイレへ誘導している。オムツからリハビリパンツへ移行するなど、排泄の自立に向けた支援を行っている。訪問看護と連携しオリゴ糖を取入れ、体を動かすレクリエーションを通して腸の活動を促し自然排便ができるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬で調整をしている方や、主治医と相談しコントロールしている方もいます 訪問看護とも連携し対応しております 週2回はレクリエーションを通し運動もしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限りご利用者の希望でお風呂に入っている 拒否がある場合職員が交代して声掛けをしたりするなど工夫したりしている	入浴は週2～3回行い、夕方の入浴など個々の希望に応じた支援を行っている。湯は都度入れ替え清潔を保持している。個浴と機械浴があり、全ての利用者が浴槽でゆっくりと温まることが可能となっている。入浴中は思いを丁寧に聴き取り、ゆず湯や菖蒲湯など楽しみを感じることができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠をしっかりと確保するため、日中運動したり、個別の援助をして、日中の活動量を増やすように心掛けている 週2回はレクリエーションを通し運動もしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様から問いがあった場合は、薬情を用いて説明をしている また、主治医や看護師に相談したりしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品に関しては、希望があれば出来るだけ浴うようにし、召し上がっていただける機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で、外出は中々出来ていないが、外での催しや周辺の散歩は行っている	これまでは、事業所が企画し家族と一緒に小旅行を楽しむ機会があったがコロナ禍以降実施できていない。事業所周辺の散歩や車で桜の名所を訪れるなど戸外へ出る機会を作っている。利用者から希望があった時には自宅へ外出するなど、家族の協力を得ながら外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設では金品の所持はしていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様から要望があれば電話をし、会話をさせていただいている また、オンライン面談をおこなっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が落ち着ける配置を行っている また、季節の物も置くように心掛けている	共有空間には神棚が祀られ、温かさが感じられる照明やほっと一息つけるソファが設置されており、居心地のよい空間となっている。壁面には利用者や職員と一緒に製作した季節を感じることでできる作品が飾られている。毎日の掃除や定期的な換気、温度湿度を管理し快適に過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大勢・少人数・個別と分け、思い思いに過ごせる空間を考えている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	お部屋にはご自宅にあった馴染みの物を置いていただき、安心して生活できるように、配置なども気を付けている	居室には、ベッドとエアコンが設置されている。自宅より使い慣れた家具や位牌や遺影など馴染みの物を持ち込み、安全面に考慮し本人と家族の意向を確認しながらベッドや家具を配置している。また、居室で趣味の編み物や読書を楽しむ利用者もおり、自宅と変わらない生活を営めるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活ができるように、出来るところは見守りで、出来ないところをお手伝いするよう心掛けている		